

**【話題提供】**  
**コバルトリッチクラスト掘削性能試験  
の実施について**

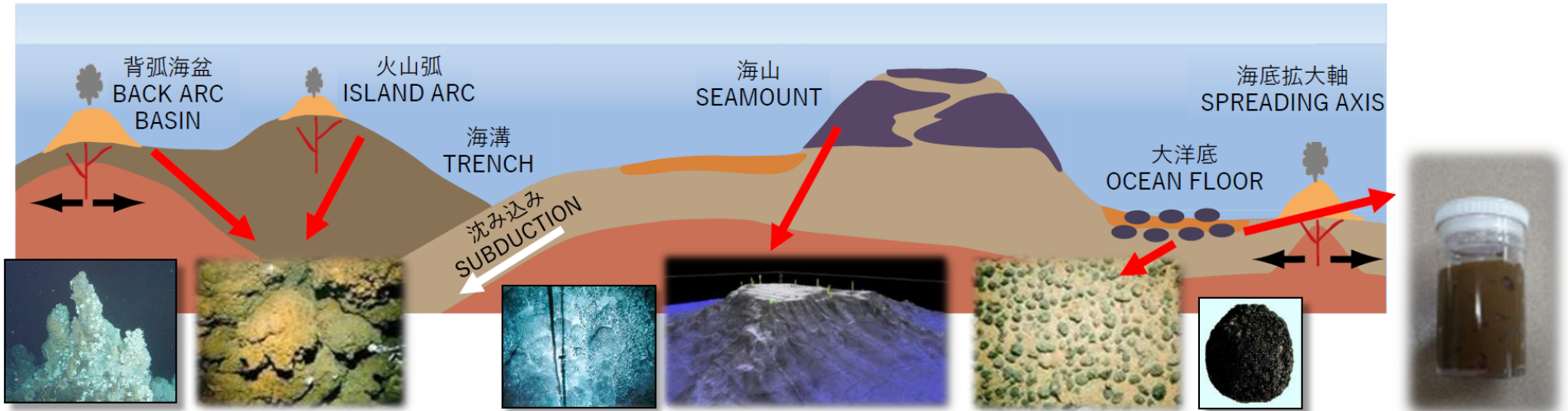
令和2年11月

経済産業省

資源エネルギー庁 鉱物資源課

# 海洋鉱物資源の全体像 4つのフィールド

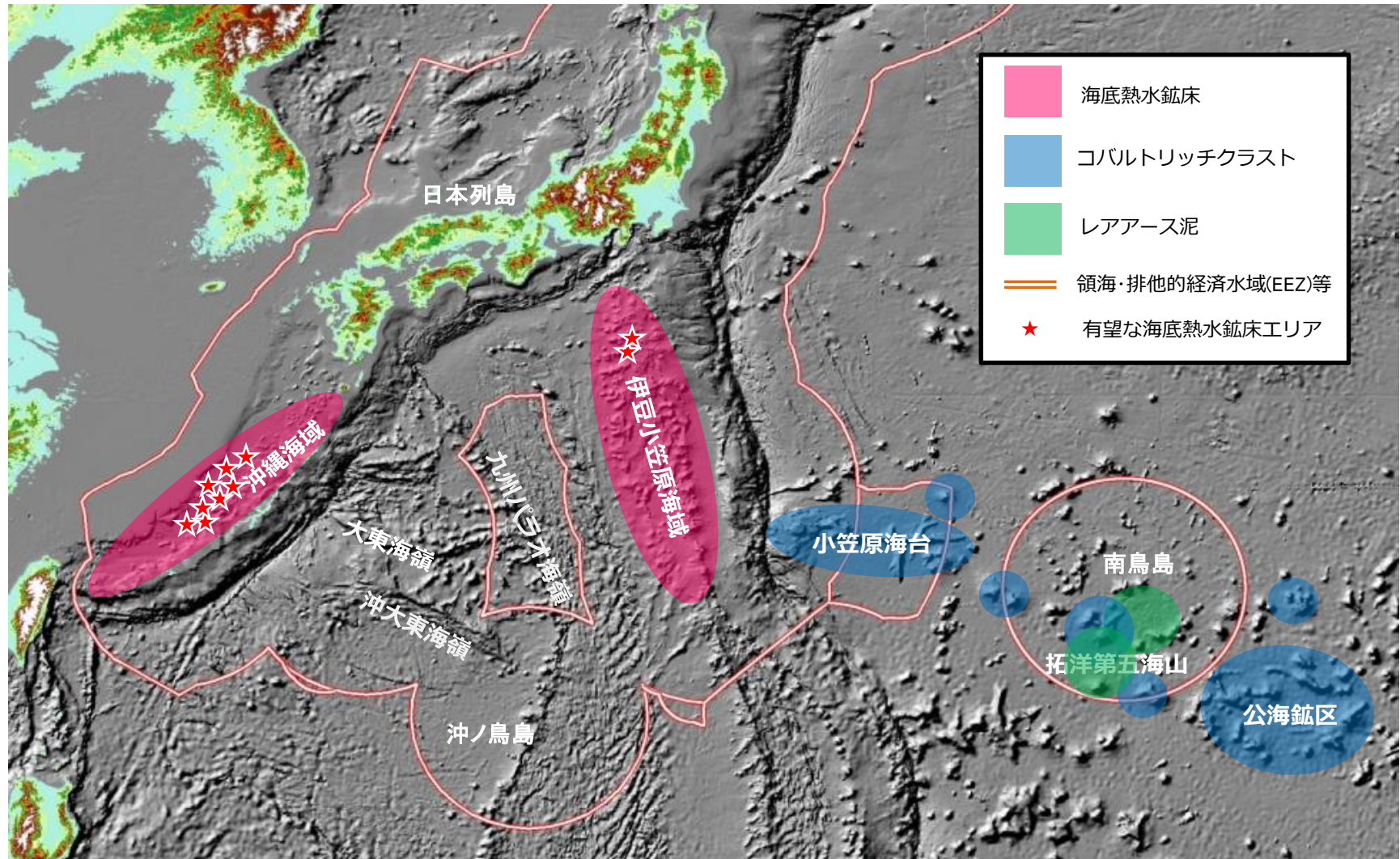
- 我が国は、世界第6位の領海・排他的経済水域(EEZ)の広さを誇り、近年、石油・天然ガスに加え、資源の新たな供給源として、海底熱水鉱床などの我が国周辺海域に賦存する鉱物資源の開発への期待が高まっている。



	海底熱水鉱床	コバルトリッチクラスト	マンガン団塊	レアアース泥
特徴	海底から噴出する熱水に含まれる金属成分が沈殿してできたもの	海山斜面から山頂部の岩盤を皮殻状に覆う、厚さ数cm～10数cmの鉄・マンガン酸化物	直径2～15cmの楕円体の鉄・マンガン酸化物で、海底面上に分布	海底下に粘土状の堆積物として広く分布
賦存海域	沖縄、伊豆・小笠原(EEZ)	南鳥島等(EEZ, 公海)	太平洋(公海)	南鳥島海域 (EEZ)
含有金属	銅、鉛、亜鉛等 (金、銀も含む)	コバルト、ニッケル、銅、白金、マンガン等	銅、ニッケル、コバルト、マンガン等	レアアース(重希土を含む)
開発対象の水深	500m～2,000m	800m～2,400m	4,000m～6,000m	5,000m～6,000m

# 我が国周辺海域に賦存が期待される鉱物資源の分布状況

現在までに、有望な海底熱水鉱床は沖縄エリアに多く発見されている。また、コバルトリッチクラストやレアアース泥については、南鳥島周辺のEEZや公海域に有望な海山及び濃集帯が確認されている。



# コバルトリッチクラストの開発に向けた工程表

「海洋基本計画」(平成30年5月15日閣議決定)

- コバルトリッチクラストについては、国際海底機構(ISA)の規則に定められた期限までに鉱区の絞込を行う。
- 採鉱及び揚鉱等の要素技術の検討を行うとともに採鉱システム及び揚鉱システムの概念設計の検討を行う。

2018FY - 2022FY

2023FY - 2028FY

